

全国22校の国立・私立大学にて開催予定 「技術は未来を創造する」 システム/360メインフレーム誕生40周年記念

日本アイ・ビー・エムは、メインフレームの原点ともいえるシステム/360™の誕生40周年を記念して、全国22校の国立・私立大学で理工系学生向けのセミナーを実施する予定です。その第1弾を2004年6月21日(月)、早稲田大学 理工学部(東京)にて開催。40周年記念タスク・チームのボランティア講師により、明日の技術立国日本を担う次世代リーダーとなる学生の皆様に、システム/360の誕生から、最新のzSeries®に搭載された最先端のメインフレーム技術までを解説しました。今回のプロジェクトについて、zSeries事業部 事業部長にその目的を説明してもらおうとともに、チーム・メンバーには、今回のプロジェクトに寄せる思いと、システム/360の思い出について話してもらいました。

zSeriesは自分にとっての誇り 渡辺 朱美

zSeries事業部 事業部長

今回のプロジェクトを進めているzSeries事業部は、IBMのメインフレームであるzSeriesの国内におけるビジネスについて全責任を持っています。zSeriesの歴史は、IBM初の本格的メインフレームであるシステム/360にまでさかのぼることができ、発表されたのが1964年4月7日、今年でちょうど40周年です。

IBMのメインフレームは、1990年代半ばよりLinuxやJava™に対応してオープン化の流れに乗り、処理能力も向上させ、今日も順調に出荷MIPS・

売り上げを伸ばしています。

40周年を機会に、コンピューターの歴史をずっと支えてきたIBMメインフレームのテクノロジーについて、学生の方々にご紹介するとともに、今後の若いエンジニアの方々には、この分野のテクノロジーにもぜひチャレンジしていただきたいという願いを込めて、今回のセミナーを企画しました。

システム/360に寄せる思いという点では、実はシステム/360と私は同じ年に生まれたという縁がありまして、その後継機であるzSeriesの事業を任されていることについて、ただならぬ関係を感じています。運命の出会いといえるかもしれません(笑)。

あこのころの情熱を再び

下山 達也

開発製造 ソフトウェア・センター 副部長



テクニカルな仕事から離れて既に20年以上がたちますが、今回のセミナーのことを知って、その昔、メインフレームにトラブルが発生した際に、メモリーの内容をダンプ(プログラムを分析するためにメモリーの内容を表示/印刷すること)してその原因を探るといった仕事に情熱を燃やしていた日々のことを思い出し、居ても立ってもいられなくなってボランティア講師に応募しました。

今回のプロジェクトでは、第1弾、早稲



田大学講演のグループリーダーを勤めます。実は大学生の前でお話させていただく経験が今までなかったこともあり、講師として多少不安がないわけでもありません。世代も離れていますし、育ってきた環境も変わっている中で、大学生の方に何をお話できるだろうかということです。ただ、今日のPC(Personal Computer)の設計を見ても、システム/360の設計思想が生きていると感じられるので、そういった話をきっかけにすれば通じるのではないかと考えています。エキサイトしながら出番を待っているという心境ですね。

若い世代へ熱いメッセージを

益子 隆司

金融ソリューション・センター
保険第三システム部
Delivery Program Manager

今回のプロジェクトでは、コア・パッケージと呼ばれるコンテンツの開発を担当しました。パッケージの作成に当たっては、どんなテーマで何を訴えるのか決めるのが大変でした。コンピューターといえばPCやUNIX®であ



る学生の皆様に、何をどうやって伝えれば効果的なのか、なかなか議論がまとまらず、会議のたびにほとんどのページを差し替えるという作業が続きました。3回か4回は総入れ替えがありましたかね。

PC、UNIXを含め、今日のコンピューターの基本となる枠組みをつくってきたエンジニアの多くは、当時20～30代でした。若い人たちには、次の世代のコンピューター技術はあなた方がつくり、それが今後の社会のベースになっていくというメッセージを伝えられればいいなと考えています。

画期的な設計思想を伝えたい

渡部 誠

マーケティング 担当部長



実は、自分の子どもがちょうど大学生でして、コンピューターというとPCのことしか知りません。しかしメインフレーム

は今日でも基幹業務の多くを支えています。そういうことが世の中あまり知られていないのではないかという思いもあって、ボランティア講師に応募しました。

システム/360の魅力は、一言でいえば「汎用性」と「互換性」といった考え方をコンピューターにもたらしたことだと思っています。それと、壊れないという意味での「堅牢性」ですね。PCでは障害が発生したら再起動するのが当たり前ですけど、発想がまったく違います。そうした設計思想が今日のzSeriesまで脈々と流れ

ていて、今日のメインフレームの信頼性を支えているのです。

だからこそ、日本ではメインフレームの比率が30%以上あるのでしょうか。いわゆる社会基盤ともいえるシステムのほとんどはメインフレームです。今回のセミナーでは、メインフレームが日本の社会そのものを支えているということを学生の皆様に伝えたいと思っています。

日本人向けのコンピューター

大嶋 敦子

コア・テクノロジー研修 担当



私が所属している日本アイ・ビー・エム研修サービスは、IBMの研修部門という位置付けになります。

今回のプロジェクトでは、コア・パッケージ作成の際に参考になるような情報提供を行いました。また、ボランティア講師の皆さんには、講師としての話し方のコツのようなものもアドバイスさせていただきました。

zSeriesの研修を担当している立場から言うと、受講生の皆様は、PCなどを普段からお使いになっていることもあり、レベルは上がってきているのですが、メインフレームについてまったく知らない方も増えてきたので、関連する用語の説明から入らなくていけなくなりました。以前にはなかったことですね。

メインフレームは、オープン系と異なり詳細な資料もそろっています。ブラックボックスとなっている部分がないため、知りたいことがあれば徹底的に追究して、内部の仕組みを納得した上で取り組むことができます。きめ細やかでロジカルな日本人の特性に合っているのではないかなとも思います。



二つの世代の架け橋に

三宅 弘朗

zSeries事業部

マーケティング マネージメント

MVS/ESAの世界から、IAサーバー(現xSeries)プランの立ち上げに携わり11年。再び今年



1月1日からzSeriesのマーケティング担当としてメインフレームの世界に戻って強く感じたのは、メインフレームをご存じの匠の世代の方々、ITツール世代の方々の間には溝があるのではないかということです。メインフレームのマーケティング担当として、何か橋渡しができないだろうかということで、今回の大学セミナーを企画し、事務局を担当させてもらっています。

プロジェクトには、ボランティア講師だけで34名、私たちスタッフを入れると40名弱のメンバーが参加しています。セミナー成功のカギを握るのは、なんといってもボランティア講師ですから、募集は社長名で行い、各管理者にはボランティア作業にかかわる時間を理解していただくことでの役員クラスから入社3年目の社員までの全社的なチームを編成することができました。

学生の方々には、テクノロジーの価値が見えにくくなっている今、このセミナーが、ITをツールとしてだけではなく、搭載された技術について興味を抱ききっかけとなってほしいと願っています。

